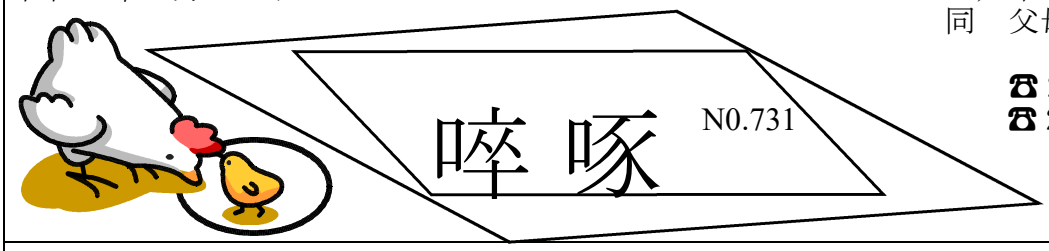
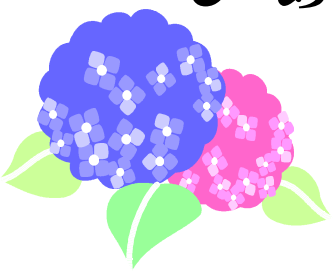
令和２年６月２６日

八戸市立新井田小学校
同　父母と教師の会

☎２５－５１２５
☎２５－３１５０



「しあわせのバケツ」再考

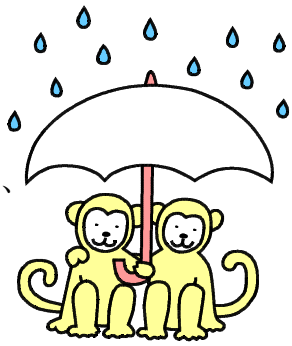


校　長　峯　　明　紀

夏休みまでの教育活動も残すところ約１ケ月となりました。少しずつではありますが授業もその他の活動も従来の姿を取り戻しつつあります。マスクを付けるなど３密を避けるための配慮をしながらも、子どもたちの発表の声や歌声が校舎から聞こえるようになりました。校長室にも朝の会で歌っている低学年の子どもたちの元気な「学校坂道」（６月の歌になっています）の歌声が響き渡ってきています。この歌は新井田小学校そのものです。何度聞いても心にしみわたる曲です。まだまだ制限はありますが本来の学校に近づいてきていることを実感しています。

また、来月には５年生の宿泊学習を一日体験学習に変更して種差少年自然の家で実施する予定です。さらに８月下旬には６年生の修学旅行を、一泊二日にして遠野・平泉方面に行き先を変更して実施する予定です。６月２９日には、６年生の保護者の皆様に説明会を開くことになっています。いずれも学校から離れての行事になります。コロナウィルス感染防止に十分配慮しながら、できる限り安全・安心な環境の中で、子どもたちの心に残る思い出づくりをしてあげたいと考えております。

さて、数年前の学校だよりで「しあわせのバケツ」という本について紹介したことがありました。「人は誰でも心の中に見えないバケツを、手にはひしゃくを持っている。このバケツが水でいっぱいになると人は幸せな気持ちになる。反対にバケツが空っぽになると、悲しく寂しい気持ちになる。ではどうやってバケツをいっぱいにすればいいのだろう？誰かに親切にしてあげたり、優しい言葉をかけたり、微笑みかけたりすると、相手の人のバケツに水がたまる。あなたの手のひしゃくで相手の心のバケツに水を入れているのだ。そのとき、あなたのバケツにも同じ量の水がたまる。そして、あなたもその人も幸せな気持ちになる。逆に、誰かをいやな気持ちにさせたり、意地悪なことをしたり、悪口を言ったりすると、その人のバケツからひしゃくで水をすくってしまうことになる。人のバケツの水を減らしてしまうと、あなたのバケツの水も減ってしまう。そして、あなたもその人も暗い気持ちになる。毎日の生活の中で、私たちはひしゃくでバケツに水を注いだり、バケツから水をくみ出したりしている。誰かのバケツをいっぱいにしようとしてみよう。バケツをいっぱいにするために何ができるか考えてみよう。」『心の中の幸福のバケツ』トム・ラスドナルド・Ｏ・クリフトン 作 高遠裕子 訳という話です。新型コロナウィルス感染拡大防止のために、これから私たちは新しい生活様式を取り入れながら生活をしていかなければなりません。「しあわせのバケツ」を自分も相手もいっぱいにするためには、これまでのように相手意識にたった行動が求められるのは当然ですが、ソーシャルディスタンスを守ること、マスクを着用すること、手洗いをしっかりとやることなどの感染予防の対策も自分も自分の周囲の人も感染から守ることにつながり、ひいては「他の人とのよい関わりが，自分や人の幸せにつながる」ことになるのではないでしょうか。



大人も子どもも「しあわせのバケツ」をいっぱいにできる新しい生活様式を身に付けることで、コロナ禍の中での幸せな生活を模索していけるものと思っています。

「啐啄」（そったく）：「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音、
「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。